



Race Report

10-11 November, 2012

PETRONAS TWS GS350

今季最終戦を4位でフィニッシュ

■公式予選 【天候】 曇 【コース】 ドライ

全6戦で争われる2012年スーパー耐久シリーズは、いよいよ最終戦オートポリスラウンドを迎えた。

このオートポリスでのS耐久開催は初となる為、チームとしてのデータの少なさ、さらにはGT等に参戦していないドライバーの中にはこのサーキット自体初めての走行となるドライバーも多い中、金曜日には多くのマシンがフリー走行に参加。PETRONAS TWS GS350も精力的に走行を重ね、「元々のバランスも悪くない感じていたが、試しに大幅にセッティングをチェンジした状態もトライ出来た。どんな状況でも悪くないし、特にレースセッティングに関してはかなりの自信ありです」と、逆転でのタイトル獲得に向け手応えを掴み、土曜日の公式予選を迎える事となった。



オートポリスは今年のオフに路面が全部改修され今まであったギャップ等は少なくなった。しかし元々多くのドライバーが口にしてきたタイヤへの攻撃性はそれほど変わってはならず、今季レースが行われてきたサーキットの中でもタイヤへの負担が大きいサーキット。

しかも中高速コーナーが続くアップダウンに富んだテクニカルコースで、特に最終の上りセクターは左フロントに負担のかかるコーナーが多く、レースではこのあたりのタイヤマネージメントがかなり重要になってくる。

土曜日朝に行われたフリー走行では状態の良いユーズドタイヤを使い2'00"8をマークしたPETRONAS TWS GS350。NEWタイヤで挑む予選では1分59秒台のタイムも視野に入れられる状態でAドライバー予選を迎える事となった。そのAドライバー予選に出走したのは吉本大樹。ところがその吉本は、マシンに若干のマイナートラブルが出てしまった事もありタイムを2'00"563までしか伸ばす事が出来ず。さらにBドライバー予選に出走した佐藤選手もマークしたタイムは2'00"918となり、PETRONAS TWS GS350は合算タイム4番手で予選を終了する事となった。

■決勝 【天候】 雨 【コース】 ウェット

予報で告げられていた通り、天候が悪化した日曜日のオートポリス。朝から霧がコースを覆い、9時40分から開始されるはずだったウォームアップ走行セッションは10分間のディレイを2回重ねた後、結局中止になった。さらにこれを受けて追加された決勝前10分間のウォームアップセッションも最終的に濃霧の為キャンセルされる事となり、決勝のスタートもディレイ。レース自体のキャンセルもやむ無しかとも思われた。

しかしレースは2時間レースに短縮された上で14時ちょうどにピットロードオープン、14時30分にセーフティカー (SC) 先導のもとスタートが切られる事となった。それでもレーススタートが切られるまでには6周を要し、この間にほとんどのチームが義務付けのドライバー交代を消化。PETRONAS TWS GS350もスタートでマシンに乗り込んだ佐藤選手がすぐにピットへと戻り、ここで今回のCドライバー脇阪選手にドライバーチェンジ。レースのスタートを待ちながら周回を重ねていく。



その後も暫くの間SCランが続き、レーススタートが切られたのは15時過ぎ。するとここから脇阪選手が見事な走りでごんごんポジションをアップ。なんと4番手から一気にトップに浮上し、さらに後続に対しマージンを築き始める。ところがここでまたしても濃霧の為SCがコース上。ここでピットに戻りドライバーチェンジを行いたかったPETRONAS TWS GS350であったが、SCが入ったタイミングに恵まれず、ピットインを翌周に行わなければならないようになってしまう。結局、運にも左右されたこの1周でそれまでのマージンを一気に失うことになってしまったPETRONAS TWS GS350は、吉本大樹にドライバーチェンジを行った時点でスタートポジションと同じ4番手にまでポジションを落としてしまう。

それでも長丁場のレースではチェッカーを潜り抜けるまで何が起るか分からない。一縷の望みを持ち吉本大樹が周回を重ねていく。しかしこの日のPETRONAS TWS GS350に勝利の女神がまほ笑む事は無かった。一向に回復しない天候のもと再三のSCが入り、最後はまともに勝負する事も許されない展開のまま赤旗が提示されレースはそのまま終了する事に。結果、PETRONAS TWS GS350は4位でレースを終える事となり、チャンピオンシップ争いでもトップに浮上する事は叶わず。チームにとって初、吉本自身にとっては2度目のシリーズタイトル獲得への希望は途絶える事となってしまった。

12' Super Taikyu Series Round 6 / AutoPlis
2012.11.10-11 (sat/sun) Qualify & Final
Text : www.hiroki-yoshimoto.com

【OSAKA TOYOPET motor sports report】 <http://www.osaka-toyopet.jp/contents/motor-sports-report/>
【OTG Motor Sports Club blog】 <http://blog.zaq.ne.jp/otgmsc/>
【Super Taikyu Series Official Site】 <http://www.supertaikyuseries.com/>
【Hiroki Yoshimoto Official Site】 <http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

PERSONAL SPONSORS

PARTNERS

HY Management Co., Ltd.
info@hy-management.com
www.hiroki-yoshimoto.com



Race Report

10-11 November, 2012

吉本大樹コメント

木曜日に設けられたフリー走行のセッションからマシンのバランスが良く、オートポリスを走った事のない晋也（佐藤選手）と小林さんに走行を重ねてもらいました。金曜日でもマシンの状態はよく、トラブルフリー。全てが順調に進んでいました。

予選では少しABSに違和感があり、本来想定していたタイムを出すことはできなかったのですが、それでも標準は決勝だったので何の不安もありませんでした。残念なことに濃霧の影響でレース距離が短くなってしまったので、4番手スタートの我々としては早々にポジションを上げていかなければならない状況になりましたが、薫さん（脇坂選手）がめきめきとポジションを上げてくれて優勝を確信しました。が、その後再度導入されたSCのタイミングの影響で薫さんが貯めてくれた貯金を使い果たしてしまっただけ…。その後の残り周回数を考えると再びトップを奪い返せるはずでしたが、SCが入ったポジションの関係で上位のマシンと1周近い差が生まれてしまったことでその可能性も経たれてしまいました。

戦わずして、運により結果を出せなかったのは非常に残念ですが、仕方ありません。事実上OTG Motor Sports発足初年度で、しかもLexus GS350という巨体でありながら、終盤戦は確実にトップ争いができる状況にまで成長しました。2013年シリーズチャンピオンを目指して早々に戦略を立てていきたいと思えます。日々マシンを細かくを整備し、我々ドライバーのわがままをすべて聞き入れてくれたメカニックやスタッフの皆さん、PETRONAS様、OHINS牧さんを始め、チームメイトの3名、そして応援して下さいましたファンの方々に感謝しています。応援ありがとうございました。

【OSAKA TOYOPET motor sports report】 <http://www.osaka-toyopet.jp/contents/motor-sports-report/>

【OTG Motor Sports Club blog】 <http://blog.zaq.ne.jp/otgmsc/>

【Super Taikyu Series Official Site】 <http://www.supertaikyuu.com/>

【Hiroki Yoshimoto Official Site】 <http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

PERSONAL SPONSORS

PARTNERS